

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第3号）」について送付しますので、業務の参考にして  
ください。

## 令和6年産麦作情報（第3号）

### 1. 気象の概要（2月14日～3月4日までの気象、平年と比較して）

平均気温…2.2℃高い。

降水量……かなり多い。（平年比206.1%）

日照時間…少ない。（平年比80.8%）

### 2. 麦類の生育状況

#### 農試情報田の調査結果（3月1日付け 麦づくり情報第2号）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	45.9	644	8.2	44.7	<b>[気象]</b> 2月9日～2月29日まで ◆平均気温…平年より2.7℃高い ◆日照時間…短い(平年比87%) ◆降水量…かなり多い (平年比210%)  <b>[生育]</b> ◆草丈 全品種・全作期で長い。 ◆茎数 12/8 播種「サチホゴールドン」、 「はるか二条」で多い。他は少ない。 ◆葉齢 全品種・全作期とも進んでいる。 ◆葉色 (SPAD 値) 全品種・全作期とも淡い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.7	757	7.3	46.2	
		平年比(差)	122	85	+0.9	-1.5	
	12/8	本年	36.2	648	7.0	46.5	
		平年	23.3	700	6.0	48.7	
		平年比(差)	155	93	+1.0	-2.2	
サチホゴールドン	12/1	本年	47.1	1,179	8.4	43.0	
		3ヵ年平均	27.0	1,206	6.8	45.1	
		前年比(差)	170	93	+1.9	-4.1	
	12/8	本年	44.1	1,293	7.3	42.7	
		平年	22.9	929	6.3	45.7	
		平年比(差)	193	139	+1.0	-3.0	
はるか二条	12/1	本年	43.8	1,022	8.4	46.0	
		3ヵ年平均	25.3	1044	6.7	48.8	
		前年比(差)	172	87	+2.0	-4.6	
	12/8	本年	39.5	1,003	7.4	46.7	
		6ヵ年平均	23.3	885	6.2	48.3	
		平年比(差)	170	113	+1.2	-1.6	

## 農試情報田の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/26	2/11	2/13	未
		前年	1/29	2/16	2/18	3/27
		平年	2/2	2/19	2/19	3/29
	12/8	本年	2/14	2/20	2/24	未
		前年	2/20	3/7	3/8	4/2
		平年	2/22	3/4	3/7	4/6
サチホゴールデン	12/1	本年	1/29	2/16	2/20	未
		前年	2/11	2/24	3/4	3/30
		平年	2/8	2/25	3/4	3/28
	12/8	本年	2/2	2/20	2/20	未
		前年	2/12	2/28	3/9	4/3
		平年	2/12	3/2	3/4	4/2
はるか二条	12/1	本年	1/29	2/16	2/20	未
		前年	2/11	2/24	3/3	3/29
		平年	2/8	2/24	3/3	3/27
	12/8	本年	2/1	2/20	2/20	未
		前年	2/10	2/26	3/6	4/2
		平年	2/13	2/28	2/24	3/31

### ▼三神管内の調査結果（調査日：3/1 シロガネコムギ・はる風ふわり、3/4 はるか二条）

場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	主稈 葉数(L)	備考 (平年と比較して)
上峰	シロガネコムギ	本年	11/26	125	47.0	772	7.8	・ 平年の播種日は11/15～12/8 ・ 草丈はかなり高く、茎数は多い。 ・ 葉齢は進んでいる。
		平年	11/27	158	21.9	575	6.0	
		平年比(差)	-1	79	215	134	+1.8	
吉野ヶ里	はる風ふわり	本年	11/23	78	43.7	416	8.7	・ 平年の播種日は11/15～11/19 ・ 播種量が少なく、苗立ち数が少なかった。 ・ 草丈は高く、茎数は少ない。 ・ 葉齢は進んでいる。
		3ヶ年平均	11/17	131	29.5	923	7.8	
		平均比(差)	+6	59	148	45	+0.9	
鳥栖	はるか二条	本年	11/25	139	33.5	680	8.1	・ 平年の播種日は11/20～27 ・ 草丈は高く、茎数は少ない。 ・ 葉齢は進んでいる。
		4ヶ年平均	11/22	113	28.3	754	7.4	
		平均比(差)	+3	123	118	90	+0.8	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H25～H29及びR4～5の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から3ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から5ヶ年の平均値。

## 概況

- 平年と比べて気温が高く、降水量が多く、日照が少なく推移したことから、草丈は平年より高く、葉齢は1～2葉程度進んでおり、生育は10日程度早い。
- 11月中旬に播種された小麦では、現在8～9葉期で、止葉が展開中であり、まもなく穂ばらみ期を迎える。
- 今年の出穂期は、平年に比べてかなり前進化すると予想される。

〈農研機構：リアルタイムアメダスを用いた麦の生育ステージ予測（3月4日時点）〉

（参照：別添①小麦の出穂期予測）

○シロガネコムギ

11/20 播種： 出穂期 3月24日（平年比-12日）

11/30 播種： 出穂期 3月31日（平年比-10日）

○チクゴイズミ

11/20 播種： 出穂期 3月25日（平年比-12日）

11/30 播種： 出穂期 4月2日（平年比-7日）

〈佐賀農試：出穂期推定プログラム（3月34日時点、以降の気温は平年値で試算）〉

○はる風ふわり

11/20 播種： 出穂期 3月23日

○はるか二条

11/25 播種： 出穂期 3月23日

12/10 播種： 出穂期 3月31日

※今後の気温によって出穂期は大きく変動するため、あくまで参考値とする。

## 3. 今後の管理

### 穂肥

- 本年の生育は平年より進んでおり、多くの圃場では施用時期となっている。天候を見ながら施用時期を逸しないように施用する。
- 莖立期を迎えた圃場では、麦踏みと同時施用は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で全面散布を行う。
- 肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。
- ビール大麦は、品質基準（粗タンパク質：10～11.0%）を満たすため、下記表を参考に穂肥を施用する。

（参考）サチホゴールデンの穂肥診断基準（農試）

2月の月間降水量 (平年値：76mm)	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 (N成分/10a)
100mm以上の場合	葉色にかかわらず原則施用する	3kg*
50mm～100mmの場合	42以下	3kg*
	43～45	3kg
	46以上	2kg
50mm以下の場合	42以下	2kg
	43以上	施用しない

今年の2月降水量は  
157.5mm

本年産は窒素追肥で3kg 施用

※倒伏防止の観点から最大値は3kg/10aとする

## 穂揃期追肥（実肥）（4月上旬頃～）

- ・本年の小麦の出穂期は平年に比べてかなり前進化すると予想されるため、遅れないように穂揃期追肥を行う。（参照：別添①小麦の出穂期予測）

穂揃期：有効茎数の8～9割が出穂したころ

～穂揃期追肥を適期・適量実施することで目標タンパク値を目指しましょう～

特に、パン用小麦（「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」）では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。

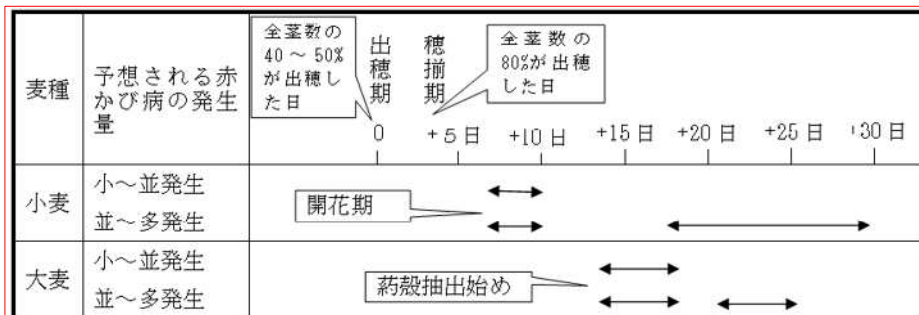
## 穂揃期追肥の施肥基準目安

品種	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
前作	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
ミナミノカオリ	20	20	10	10
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

※シロガネコムギは、葉色が淡い場合（出穂期頃のSPAD値が40以下）に施用する。

## 赤かび病防除

- ・赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- ・赤かび病防除時期については本年の出穂期は平年に比べてかなり前進化すると予想されるため、防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。



注1）出穂期とは全莖数の40～50%が出穂、穂揃期とは全莖数の80%が出穂した日。  
 注2）小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。  
 注3）大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。  
 注4）大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用量（収穫前口数）に特に注意する。  
 注5）矢印は防除適期を示す。



大麦の葯殻抽出期



### 【大麦防除時期】

- ・葯殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）。

※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。

- ・トップジン M 水和剤を大麦等で使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

### 【小麦防除時期】

- ・開花期（出穂の約7～10日後頃）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）

※「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」については2回防除をおこなう。

### 網斑病防除（大麦のみ）

- 一部の圃場で2月に入り、網斑病の発生が確認されている。今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想される。
- 登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除時期にチルト乳剤で防除する。（防除適期は出穂期、チルト乳剤は使用回数1回に留意）
- 現在の網斑病発生状況については、別添②網斑病定期調査（農業技術防除センター）を参照。



大麦の網斑病

### 排水対策

- 本年は2月の降水量が多く、定期的に降雨があったことから、一部の圃場では畝間に水がたまり、湿害による茎葉の黄化がみられる。
- 今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように整えておく。
- 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

### 雑草対策

- 一年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部でみられる。
- すでに使用できない薬剤もあるので、処理時期に注意して早めの散布を行う。

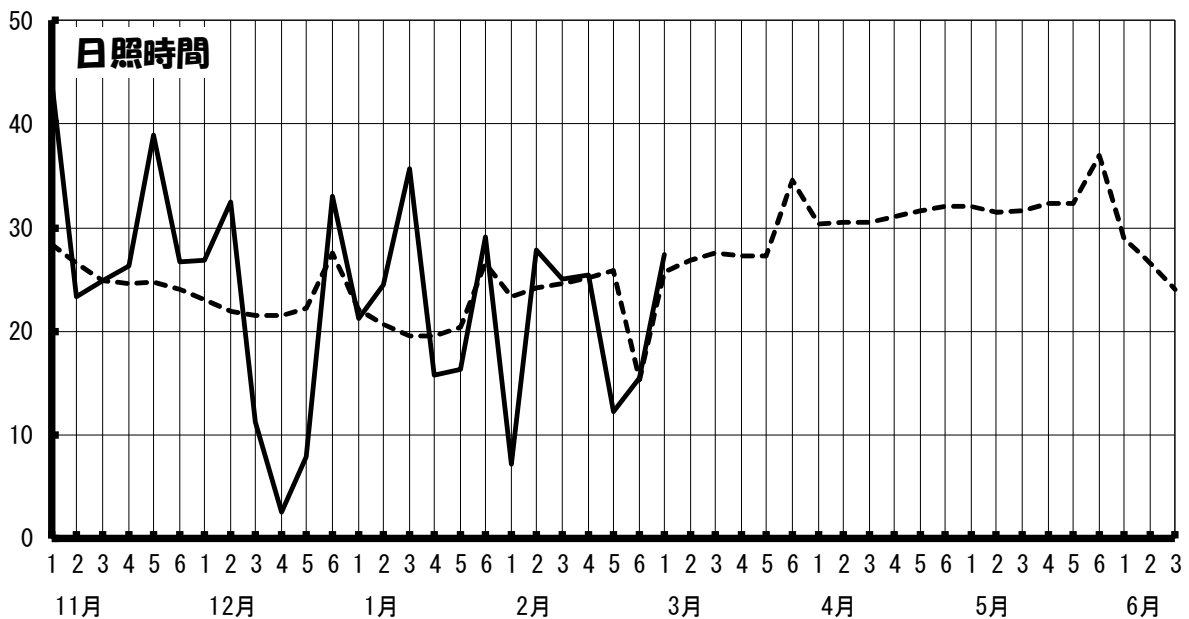
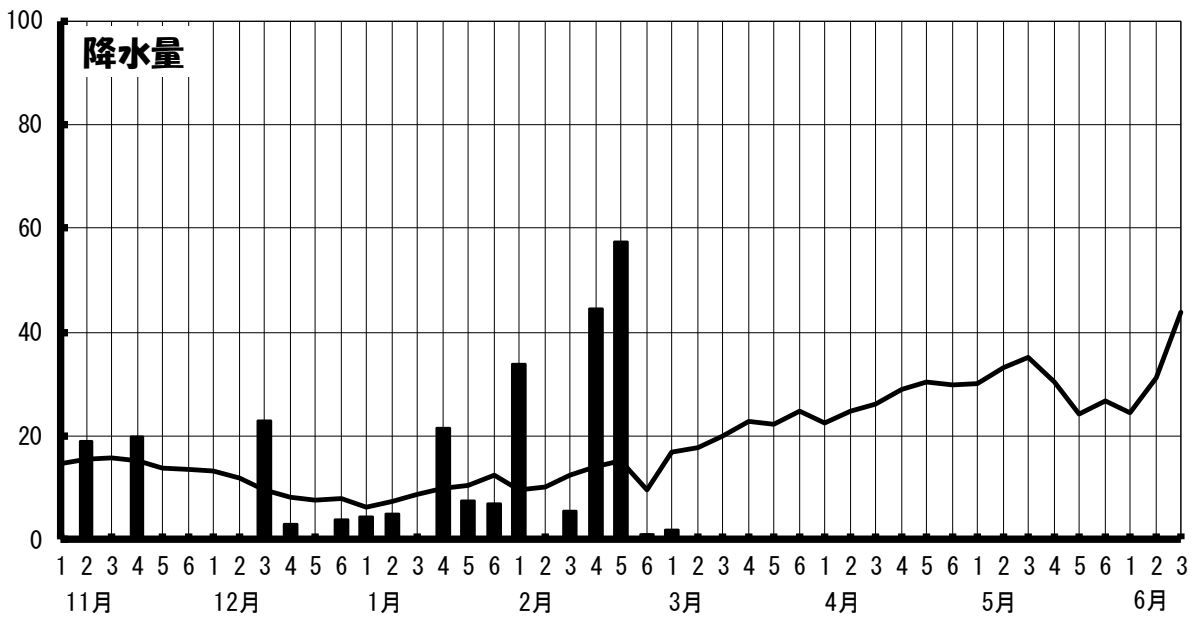
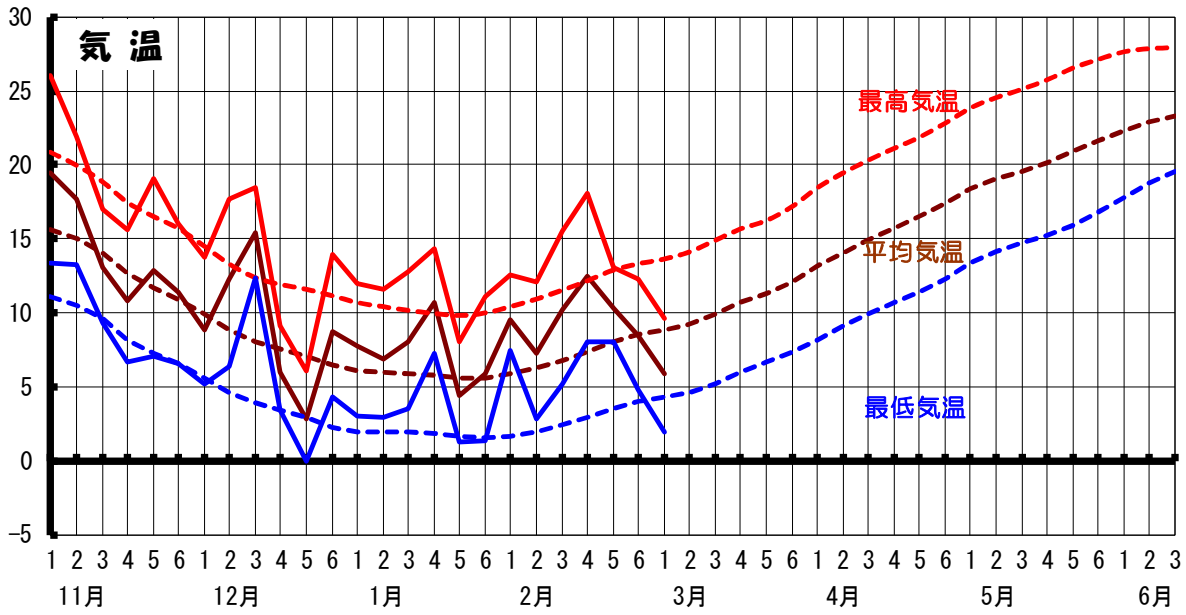
### 生育期除草剤 使用例 （どちらも大麦は散布可能時期を過ぎている）

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10aあたり			
ハサグラン液剤	一年生雑草（イネ科を除く）	100～200ml	70～100L	雑草3～6葉期 小麦：収穫45日前まで	1回
ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫45日前まで	1回
	ハーモニー75DF水和剤使用上の注意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 播種後にハーモニー細粒剤Fを散布した圃場は使用不可</li> <li>• 薬害が生じやすいので周辺作物に注意</li> <li>• 使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない</li> <li>• サーフアクタント30との併用を推奨</li> </ul> 一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロ、ノミノフスマ （ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。）				

# R6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業振興センター



グラフ中の点線は平年値